

塩氣を失ったロト

創世記一九章――14節

ロトは……声をかけて言った。「さあ、すぐにこの場所から出なさい。主はこの町を滅ぼそうとされているのです。」しかしそれは、ロトの婿たちには馬鹿げたことのように思われた。(14)

神がソドムの町を滅ぼそうとされていることを知ったロトは、二人の娘の婿たちのところへ行き、一緒にソドムの町から逃げるようにと勧めますが、ロトの言葉は「婿たちには馬鹿げたことのように思われた」というのです。ソドムの町に長く住んでいるうちに、ロトの信仰は命を失い、世俗にとっぷりつかって生きている婿たちに何の影響力も与えることが出来ませんでした。この世にあって腐敗を防ぐ地の塩としての役目を果たすことができなかったのです。地の塩としてのキリスト者は、この世に生きながらもこの世に同化してはなりません。罪の世に対して異質な存在だけが、罪の世を滅びから救うことが出来るからです。私たちは地の塩であり、この世にあっては常に異邦人です。世の人々を救いへと招くために、私たちは腐敗を防ぐ地の塩としての信仰を大切にしたいものです。